

生きている白山に学ぶ水と緑と防災

白山砂防通信



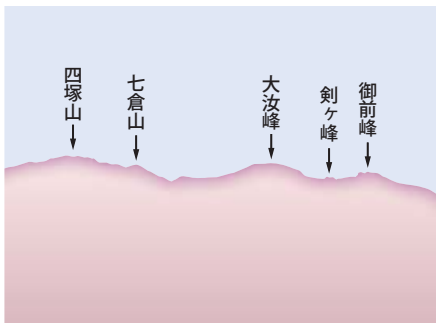
SABOは
世界の共通語

2005 春号
VOL.8

平成17年2月、白山市誕生

白山市白峰の西山から撮影した夕映えの白山

平成17年2月1日、石川県の1市2町5村（松任市、美川町、鶴来町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村）が合併し、白山市（はくさんし）となりました。総面積は755.17km²、人口約11万2千人、世帯数約3万6千世帯と、広さは県内最大、人口は県内第2位という、大きな市の誕生です。



御前峰	ごぜんがみね	2,702m
剣ヶ峰	けんがみね	2,677m
大汝峰	おおなんじみね	2,684m
七倉山	ななくらやま	2,577m
四塚山	よつづかやま	2,519m

御前峰、剣ヶ峰、大汝峰の三峰を指して「白山三峰」、これに別山(2,128m)三ノ峰(2,128m)を加えて「白山五峰」といいます。

白山市の名前の元となった「白山」ですが、古称では「しらやま」と呼ばれ、周囲に高い山が無く、白い山容がよく目立っていたのが山名の由来であるといわれています。白山が都に近いこともあり、平安時代ごろから和歌や文学作品に取り入れられるようになりました。

きえはつる時しなけれはこしちなるしら山のなは雪にそありける

凡河内躬恒 古今和歌集 (905年)

み吉野の花のさかりをけふ見れば越の白根に春風ぞ吹く

藤原俊成 千載和歌集 (1188年)

また、白山は富士山・立山と並ぶ「日本三名山」のひとつとして知られています。これは医者であり文人・旅行家でもあった橋南谿（たちばななんけい、1753～1805）が記した「東遊記」の中の「名山論」に、「高い山では富士山が第一、二番目が白山、次に立山」とあるのが由来であるとみられています。

優美な景観で我々を魅了する白山。その名を戴く白山市の誕生で、はじめて白山に注目し、訪れてくれる人もでてくることでしょうか。砂防通信では、そういった人達にも、白山が美しいだけでなく常に土砂災害の危険をはらんでいること、またそうした災害から人命を守るために砂防事業が展開されていることを、伝えていきたいと思ひます。

白山砂防女性特派員



第2期白山砂防女性特派員は『白山をいろいろな角度から知る』というテーマで、石川県だけでなく福井県や岐阜県など各方面から白山を学びました。今回は冬季の活動について報告します。

11月の活動報告

平成16年は日本の各地で台風の影響が多発しました。11月の研修会では、10月20日から21日にかけて発生した台風23号による手取川・梯川流域の出水痕跡の調査を行い、梯川と前川の合流点にある前川排水機場を見学しました。また、平成16年に発生した自然災害についての講義を受け、ソフト面・ハード面両方からの防災について学びました。

第7回研修会に参加して

第2期白山砂防女性特派員 池田香里奈

今年は全国各地で災害が多く、日頃のニュースなどを見ている、そのおそろしさをこれまでより強く感じていました。今回の研修会で、石川県の小松市でも避難勧告が出ていたことを知り、驚きました。

ハザードマップの話も聞きましたが、一度破堤すると予想以上の範囲に被害が及ぶことも知りました。

そのため避難場所も遠く、しかも、車で行っては行けないとも聞き、現実問題、避難は不可能ではないのかなあ、と行ってしまいました。

私の住んでいる地区では、ハザードマップはまだ配られていませんが、配られた時には、何分まで水が到着するかどうかだけではなく、なにを準備しておけばよいのか、逃げ遅れたらどうするのか、情報はどうして得るのか（ホームページがあることも聞きました）、車でなければ歩いて逃げるのか？ そんなことに気をつけて見たいと思いました。また、そのような記載が欲しいと感じました。



浸水被害が発生した小松市では40年ぶりに避難勧告が出され、私達も日頃から防災について考え、備えていかなければならないと思いました。



12月の活動報告

白山の地すべりや、土石流発生の要因のひとつである「雪」について学ぶため、加賀市にある「中谷宇吉郎雪の科学館」を訪れました。午後からは2つのグループに分かれ、それぞれ「パワーポイントを使用した白山砂防広報資料作成」と「特派員ホームページの作成」について討議しました。



第8回研修会に参加して

第2期白山砂防女性特派員 横井桂子

雪の科学館での中谷宇吉郎の人生・人柄・人格・仕事のこと、いろいろ思うことがありました。

すごい人に出会ったという感じです。

午後は実習でした。自分自身、振り返り全然知らなかった事が少しずつ何か解ったような気がしました。砂防の必要性、砂防の今後のこと等、これからも意識しながら勉強していきたいと思えます。

2月の活動報告

白山市一里野にある「ブナオ山観察舎」を訪れ、冬の白山麓の野生動物を観察し、野外観察を体験しました。午後からは前回に引き続きグループ毎に広報資料とホームページについて討議し、3月の発表会に向けて練習を開始しました。



ブナオ山観察舎



カモシカ、ニホンザル、イノシシを観察



カンジキを履いて、野外観察

人と自然、野生動物との関係について考えさせられました



雪の多いところでは見られないはずのイノシシが観察できました。暖冬や積雪量の低下で、分布範囲や生息数が増加傾向にあるそうです。

第9回研修会に参加して (抜粋)

第2期白山砂防女性特派員 野島昭子

旧尾口村・ブナオ山観察舎

春にブナオ山は登ったが、こちら側から山の手前を見る事になるが、冬山(雪山)でここまで来る事もなく、望遠鏡で対岸の急斜面にカモシカ、イノシシ、サル発見。毛はふさふさ、枝の皮を食べているのか冬の自然の生き物、テレビのそれが目の前に見られた。生きる姿に何か感動めいたものがあった。

カンジキを履いて不思議、新雪をふんでも15cm程雪にしずむだけ、昔の人は何とうまく作ったものか。

この辺は白山連峰の山脈へ強風と雪の冬は厳しい場所、建物は木造で太い梁で雪下ろしもしなくても大丈夫、100年以上持つそうで日本人のこういった文化?を真剣に継承しなくてはダメなんだろう。

3月の活動報告

第2期白山砂防女性特派員最後の研修会になる今回は、金沢大学文学部・青木賢人助教授と立正大学地久環境科学部・島津弘助教授をお招きして「白山から手取川扇状地まで：川なりと砂防事業について」と題した講演会を開催しました。

特派員もこれまでに白山や砂防について学んだことや活動内容をパワーポイントとホームページにまとめ、発表しました。発表のあと第2期白山砂防女性特派員修了式が行われ、1年間の活動について振り返りました。



パワーポイント班の発表

金沢大学の青木助教授には『手取川水系と扇状地について』、立正大学の島津助教授には『手取川や急流荒廃河川上流部における土砂動態について』と題して講演していただきました。



講演会の様子



ホームページ班の発表

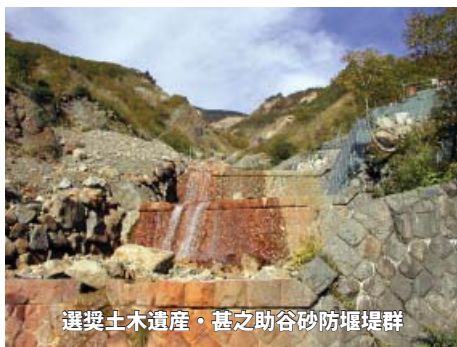
これまでの研修会で学んだことを、自分たちなりにまとめて、発表しました!



詳しくは白山砂防女性特派員ホームページをご覧ください

金沢河川国道事務所ホームページ <http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/> から「広報」→「広報活動」→「白山砂防女性特派員」

◆ 白山砂防科学館・春休み特別展示のお知らせ ◆



選奨土木遺産・甚之助谷砂防堰堤群

白山砂防科学館では、春休み期間中白山甚之助谷砂防堰堤群・選奨土木遺産認定特別展示を行います。選奨土木遺産認定証や青銅製の銘板、甚之助谷写真パネルなどを展示します。

「甚之助谷砂防堰堤群」は白山の甚之助谷（標高約1,600m付近）に1927年から1939年にかけて、人力で施工された階段状石積み堰堤群です。平成16年に社団法人土木学会より「選奨土木遺産」として、石川県内で初めて認定されました。

「甚之助谷砂防堰堤群」は、現存する階段式砂防堰堤群では日本最古級のものですが、現在でも立派に砂防機能を果たしていることが評価されました。

甚之助谷は崩壊が激しく、また砂防工事の現場に近いこともあり立ち入りは禁じられています。この機会に、普段は見ることのできない戦前に施工された砂防堰堤を身近に感じてみませんか？

◆ 雪だるままつり2005 開催 ◆

平成17年2月7日・10日、白山市白峰では「雪だるままつり2005」が開催されました。今回で第16回目を迎えるこのお祭りは、白山市白峰および桑島地区の住民が総出で雪だるまを作るもので、「あした忘れる豪華さよりも永遠に心に残る素朴さを」をキャッチフレーズに毎年桑島地区と白峰地区の2箇所ですべて2日間開催されています。午後5時から雪だるまの中にいれたろうそくに火がともされ、集落は幻想的な雰囲気になります。

白山砂防科学館と白峰砂防出張所の職員も館の前に雪だるまを作って、お祭りを盛り上げました。



白山砂防科学館の雪だるま

科学館前の緑の村広場には、白山の砂防工事に携わる有志の方々が、白山三峰をかたどった雪山と、白山の標高2,702mにちなんで2,702個の雪だるまを作り、訪れた人々の歓声を誘っていました。また、緑の村にある旧上原スキー場の斜面にも雪だるまが並べられ、ろうそくに火が入ると特大の雪だるまが浮かび上がりました。

村内でも各家々の前に大小さまざまな雪だるまが作られ、中には新潟県中越地震で被災した方たちへの応援メッセージの添えられた雪だるまもありました。

平成16年は日本各地、また、世界各地でも大規模な自然災害が多発した年でした。雪だるまには、災害の脅威を忘れずに防災へとつなげていく…そんな想いも込められているように感じました。



山の斜面に出現した巨大雪だるま

◆ 白山砂防科学館小学生団体入館者紹介 ◆

平成16年度も、白山砂防科学館には沢山の小学生が見学に訪れてくれました。

特に小学校4～5年生は理科で川のはたらきを学ぶこともあり、当館での「土石流実験模型」の実演や、百万貫の岩がどのようにして流れてきたのかを3Dで解説した映画「百万貫の岩は語る」などが授業の一環として取り入れられています。

白山砂防科学館には、このほかにも砂防や防災の知識を簡単に覚えらるクイズや、白山砂防をドキュメンタリー形式で紹介した映画など、大人から子どもまで、砂防・防災・手取川・白山について楽しく学べる展示や資料を用意しています。学校での見学や生涯学習などに利用していただければ幸いです。

見学の際に解説や土石流災害模型の実演をご希望の方は、事前に科学館までお問い合わせ（ご予約）願います。

◆ 編集後記 ◆

今号では、3月に修了を迎えた第2期白山砂防女性特派員の活動を2頁にわたって特集しました。特派員メンバーからは、白山での砂防事業や科学館について、女性ならではのさまざまな意見をいただきました。当館の運営にぜひ役立てたいと思います。

また本年度も多数の小学生が当館を見学に訪れてくださいました。厚く御礼申し上げます。新しく誕生した白山市の小学生にも、白山について、また自然災害・砂防事業について楽しく学んでもらえる施設になるよう、さらなる努力を重ねて参ります。

平成16年度・小学生の主な団体入館者

辰口町辰口中央小学校	4年生・123名
小松市符津小学校	4年生・49名
野々市町菅原小学校	4年生・76名
松任市石川小学校	4年生・61名
小松市犬丸小学校	4年生・25名
川北町川北小学校	4年生・49名
金沢市米泉小学校	5年生・56名
福井県上志比小学校	5年生・62名
鶴来町朝日小学校	5年生・62名
白峰村白峰小学校	5年生・11名
尾口村尾口小学校	5年生・6名
野々市町教育委員会生涯学習課	39名
白峰村白山まるごと体験塾	29名
「白山、兼六園を世界遺産に」 キャンペーン推進会議主催白山こども塾	50名

◆ 編集・発行 ◆

白山砂防科学館

毎週 木曜日 休館 入館 無料

920-2501 石川県白山市白峰ツ40-1
TEL 0761-98-2990 FAX 0761-98-2991
Eメール hakusan-j@po3.nsknet.or.jp